

新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設 基本設計市民説明会(6回目)	日時	令和2年2月22日(土) 10:00~12:15	場所	萌え木ホール
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当部長、中谷福祉保健部長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉社会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、小林主任、萩野主任 地域福祉課 山口主査 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	28人(うち市議会議員3人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行: 渡辺主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶 市長が、全景外観イメージ図について次のとおり発言した。 市報特集号並びに基本設計(案)に掲載している全景外観イメージ図において、実際の方角と異なる向きで影が表現されていた。閲覧いただいた皆様にご迷惑をおかけしたこと、お詫び申し上げます。現在、イメージ図の修正作業を行っており、正しい画像データの掲載が可能となり次第、市ホームページ上のデータについて順次更新する予定である。また、本日お示しするスライドは、修正したイメージ図である。今後の成果品の取りまとめに当たっては、細心の注意を払って取り組んでまいりたい。</p> <p>3 基本設計の経過報告について</p> <p>4 基本設計(案)の説明について 高橋庁舎建設等担当部長が3について説明を行った後、株式会社佐藤総合計画が4について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p>【市民A】 駐輪場・駐車場は、アクセスを含め、利用しやすくなることを望んでいるが、どのように台数を算出しているか。また、駐車場スペースが広く感じるが、暫定広場のような土のエリアがあってもよいのではないか。</p> <p>【公共施設マネジメント推進担当課長】 駐車場は、市民ワークショップやこがねいミーティングでの意見も踏まえ、現庁舎の駐車場台数と稼働率等を調べ、通常期の月平均で30%程度、繁忙期の時間帯によっては40%を超えるような状況を確認した。稼働率や今後の繁忙期、(仮称)新福祉社会館の利用等を考慮すると、駐車台数は一定増えていくものと考えている。また、前面道路の交通渋滞を回避するためにも一定の駐車場台数は確保すべきと考え、設計者と協議し、現在の計画とした。なお、公用車は削減する方向で検討している。 駐輪場は、基本計画では300台としていたが、武蔵野市を参考に延床面積45㎡ごとに1台で算出し、さらに、市民の利便性を加味し、400台と設定した。また、職員台数等現庁舎の使用状況を踏まえ、改めて実施設計期間で整理してまいりたい。</p> <p>【株式会社佐藤総合計画】 駐輪場は、西側、北側、東側、南側からのアクセスを考え、各所に配置している。すべてをラック付きとする計画ではなく、子育て用の自転車等は平面の駐輪場の利用を想定している。こがねいミーティング等では、敷地内では、自転車は押して歩くといった意見をいただいております。駐輪場の利用も含め、ルール作りは今後検討する必要があると考えている。 土のエリアについて、庁舎は、災害時の活動拠点となるため、舗装は必要と考えているが、景観や透水性に配慮した舗装材を考えている。ただし、庁舎と(仮称)新福祉社会館ができることにより、障がいのある方や高齢者等様々な人々が訪れるひろばとなるため、現状と同じ使い方は難しいと考えている。限られた敷地の中で、広くオープンスペースを取れるよう計画している。</p> <p>【市民B】 それぞれの駐輪場は、何台ずつ計画しているか。(仮称)新福祉社会館に来館する方は敷地内を通れないと不便ではないか。</p> <p>【株式会社佐藤総合計画】 駐輪場は全体で400台であり、西側に180台、北東側に180台、南東側に40台確保する計画</p>				

としている。安全性を考慮した場合、敷地内を自転車で通り抜けるのは非常に危険である。西側から北東側へのルートは敷地外の高架側道を通して、北側からアクセスすることがよいと考えている。

【市民C】

小金井は美しい街であるべきだ。まちづくりや都市計画を踏まえ、小金井市全体を考えて、計画してほしい。

【市長】

庁舎建設は長い課題となっている。本庁舎の老朽化、分散状態、第二庁舎の賃借等様々な課題を解消するため、庁舎建設を実現していくことは、小金井市のために必要な判断と考えている。また、福祉会館は閉館・解体しており、早期に機能回復を図る必要がある。庁舎、(仮称)新福祉会館に保健センターを加え、市域の中央に、様々な市民が利用する複合施設として建設することを市の方針として示してきた。

新庁舎・(仮称)新福祉会館は、適切なメンテナンス、大規模修繕等を行い、耐用年数100年の建物としたいと考えており、長く市民の皆さんに使っていただく施設になると考えている。将来に必要な機能に柔軟に対応できる施設となるよう計画していく必要がある。

現在、庁舎への交通アクセスとして、コミュニティバスのルート見直しを行っている最中だが、設計では、庁舎建設予定地内に入れるようピロティにバス停の配置を計画している。交通アクセスの利便性を高めていきたい。

【市民D】

太陽光発電の容量、パッシブ手法による節電効果、LED等による設備投資と消費電力効果、エネルギー自給率はいかがか。

【株式会社佐藤総合計画】

太陽光発電の容量は、80kWを想定しており、庁舎の電力として使用することを考えている。全体の計画として、使用エネルギーをいかに減らすかという考え方で計画している。一番エネルギーを使用する設備は、空調であるが、一番影響があるのは西側の日射し、次が東側の日射しとなる。東西に長い敷地形状に建てる建物であることから、東西からの熱の影響は少なくなる。また、近隣建物のプライバシーの観点から、東西南面は、壁を主体としたデザインとすることで、断熱効率がよく、熱が建物に入りにくい計画としている。さらに、パッシブ手法等の導入を考えている。一般的な同規模の庁舎に比べ、40%程度はエネルギーが削減できると考えており、運用面の検討も踏まえ、将来的には50%のエネルギー削減を目指したいと考えている。エネルギーを使わない管理運用方法の検討が必要になるものと考えている。

【市民E】

電動車いす利用者に配慮したエレベーターとなっているか。防災拠点として使用する会議室について、転用ができるか。屋上にヘリポートの設置は検討しているか。

【株式会社佐藤総合計画】

エレベーターは、15人乗りで計画しており、車いすでも利用できる。ストレッチャーにも対応できるように、庁舎西側のエレベーターを大きくすることを検討している。災害時には、庁舎室や地域安全課周辺の会議室等は、速やかに転用できるよう検討している。ヘリポートの設置は想定していない。

【市民E】

コミュニティバスについて、職員の通勤専用のピストン利用等、駅とバス停を直結させる考えはあるか。

【市長】

公共交通会議にてコミュニティバスのルート見直しを行っており、庁舎建設予定地内に入れるようバス停を計画しているが、職員用のピストン利用については、考えていない。

【市民F】

日影を考えると庁舎を北側、(仮称)新福祉会館を東側に配置し、広場を南側に作る検討は行っていないか。また、敷地の雨水浸透はどのような考えか。駐車場の災害時の転用を含め、オープンな広場として子どもの遊び場、憩いの場としての使い方を考えてほしい。

【株式会社佐藤総合計画】

配置について、既存清掃関連施設を残したまま、庁舎建設を行うことが前提となっており、一定の制約がある中での配置である。また、建築基準法の日影規制において、北側に建物を配置することはできない。

敷地内の地面に降った雨水は、浸透トレンチを通り、浸透させる計画としているが、最近のゲリラ豪雨等基準以上のオーバーフロー分は、敷地内に溜めることはできないため、緑中央通りの下水道本管に流す計画としている。

広場について、限られた敷地の中で、必要な駐車台数を確保した上で、憩いの場となるスペースを考

えてまいりたい。

【市民G】

駐輪場として計画している400台に職員用は含むのか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

400台には、職員用も含まれている。職員用として必要な台数、設置場所等のエリア区分については、実施設計の中で整理してまいりたい。

【市民G】

防災上、計画している自家発電の設備は問題ないか。また、(仮称)新福社会館で、屋内外で遊べるスペースは考えていないか。

【株式会社佐藤総合計画】

エネルギーは、電気、ガスといった複数のエネルギーで計画している。非常用発電も設置しているため、停電時にも機能維持ができるよう計画している。浸水等水害対策も考慮して、6階に電気設備等を設置している。

広場について、限られた敷地の中で、必要な駐車台数を確保した上で、憩いの場となるスペースを考えてまいりたい。また、こがねいミーティングでの意見を踏まえ、広場から屋上庭園に繋がる設えとしている。

【市民H】

清掃関連施設が残っている段階での駐車場はどのようにするのか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

具体的に確定しているわけではないが、外構整備が完成するまでの間は、仮設の駐車場の使用について、JR東日本八王子支社と継続的に協議をしている。必要な台数、時期、期間等が決まった段階で詳細な協議を行う予定である。

【市民I】

建物から電車が見えるのはメリットと思う。カフェの配置について、子どもたちが遊んでいる姿を見ながら楽しむ、多世代の方に子育てに関心が深まることに繋がる配置を考えていただきたい。

【福社会館等担当課長】

多目的室は、旧福社会館の公民館や集会施設を想定しており、子育て世代や高齢者等様々な市民が利用することを考えている。こうした利用から近くのカフェに繋がるよう配置を検討してきたものである。1階から3階まで吹き抜けにしており、様々な活動が見え、交流が生まれる場となると考えている。

【株式会社佐藤総合計画】

1階マルチスペースは様々な人が活動できるスペースとして想定している。マルチスペースでは、カフェや市民参画スペースの利用者が利用することも想定され、吹き抜けを介することで、1階から3階まで“見る見られる関係性”をつくり交流が図れる計画としている。

【市長】

複合化のメリットが生かされる利便性の高い施設を目指している。(仮称)新福社会館の屋上は、市民ワークショップでも意見をいただいております、子どもたちが遊べるような運営を考えていきたい。

【市民K】

外部から屋上庭園へのアクセスは階段だけでなくスロープも設置するのか。屋上庭園は何時まで利用可能なのか。

【株式会社佐藤総合計画】

屋上庭園への入り口は、外部階段を用いる方法と内部のエレベーターからアクセスする方法がある。車いすの方やベビーカーを利用する方はエレベーターを用いる計画としている。

【福社会館等担当課長】

福社会館は22時まで開館しているが、屋上庭園については今後の運営方法の中で検討していきたいと考えている。

【市民L】

高架下の工事中の安全性を確保してほしい。竣工後も安心して通行できるようにしてほしい。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

関係部署と連携の上、安全対策を検討してまいりたい。

【市民M】

イメージパースの影は修正されたが、正しい修正とは思えない。詳細な季節、時期等を明示のうえ、正しく修正してほしい。

【株式会社佐藤総合計画】

イメージパースについては、今後、基本設計の取りまとめに向け、修正のうえ、再度、示させていただきたいと考えている。オープンスペース部分は日影になる部分があるので、季節や時間帯を示したイメージパースを提示させていただく。

【市民N】

概算費用に対し、借入金が何年で償還が終わり、市の所有となるのは何年後となるのか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

これまでの検討において、一定の財源計画に組み立ててきたが、今回の概算費用を踏まえた財源計画の作成までは至っていない。庁舎建設基金や一般財源をしっかりと試算したうえで、起債に頼る部分も必要となってくる。建設事業債は20年かけて償還するのが本市の通例となっている。来年度には、市全体の財政フレームを作成する中で適切に整理していきたいと考えている。なお、市の所有になるのは、起債の償還が終わる20年後ではなく、竣工後、引渡しを受けた時期になるものと認識している。

【市民G】

清掃関連施設の移転先は決まっているのか。

【市長】

不燃系の清掃関連施設の再整備を環境部で進めており、空き缶、ペットボトル処理施設は貫井北町の中間処理場に令和6年度中に移設することを計画している。

6 閉会

— 以上で、閉会 —